

# 東電、国に責任を転嫁



事故後の福島第1原発。左から4号機、3号機、2号機、1号機—2011年3月20日(エア・フォート・サービス提供)

(共同) 東京電力の福島第1原発事故調査委員会(社内事故調)がまとめた最終報告書案の全文が12日、判明した。深刻な環境汚染を招いた放射性物質が2号機の格納容器から漏れ出したとの分析結果などをあらためて盛り込んだが、2号機の詳しい損傷箇所の特定は避けた。首相官邸や経済産業省原子力安全・保安院の了解が必要だったため情報発信が制約されたと国を批判する記述もある。東電は外部の専門家による検証委員会の評価とともに来週にも公表する。報告書案はA4判約360ページ。地震による原発の主要設備への損傷は「ほとんどなかった」と説明。大気中に放出された放射性物質の推定量が90万テラベクレル(テラは1兆)に上ったことを、飛散状況を示す図解とともに記載した。

# 2号機損傷、未解明 社内事故調が最終報告案

記述はなかつた。

また福島原沖で大きな地震が過去になかつたたため巨大な津波の発生は想定しておらず、国の研究機関も同じ評価だつたと指摘した。事故4日前の昨年3月7日に、津波の長期的評価について経済産業省原子力安全・保安院と検討した際も「今すぐ対策を実施するようにとの指示は受けなかつた」と判断の妥当性を強調した。一方、事故当初から遅くて内容も杜撰」と批判されてきた情報発信が原因だつたとした。

一方、事故当時から1号機の本体爆発で、官邸が把握していない写真を東電が福島県に示し始めたことでの枝野幸男官房長官邸にお伺いをたて、許しが出るまで広報する。(同)が社内に今後は受けつけ、清水正孝官房長官邸をお伺いをたて、許しが出るまで広報する。

その上で「情報を隠蔽・改ざんした事実や意図はない」と主張。報告書案には撤退問題の調査結果も盛り込まれた。

東京電力福島第1原発事故の社内調査最終報告書案は、政府や専門家も想定していない規模の津波だつたと何度も強調した上で、津波に対する事前の評価や事故対策について、政府との「共同責任」を主張したり、国に責任転嫁したりする表現が目立つた。報告書案では、国の方

にさえ上つてない」と記述した。

三陸沿岸などと襲つた869年の貞觀津波は、専門家と相談して対応を検討したと説明。東日本大震災の発生直前の昨年3月3日、文部科学省か

いの地震は、検討の俎上に盛り上つてない」と記述した。

また福島原沖で大きな地震が過去になかつたたため巨大な津波の発生は想定しておらず、国の研究機関も同じ評価だつたと指摘した。事故4日前の昨年3月7日に、津波の長期的評価について経済産業省原子力安全・保安院と検討した際も「今すぐ対策を実施するようにとの指示は受けなかつた」と判断の妥当性を強調した。一方、事故当時から遅くて内容も杜撰」と批判されてきた情報発信が原因だつたとした。

一方、事故当時から1号機の本体爆発で、官邸が把握していない写真を東電が福島県に示し始めたことでの枝野幸男官房長官邸にお伺いをたて、許しが出るまで広報する。(同)が社内に今後は受けつけ、清水正孝官房長官邸をお伺いをたて、許しが出るまで広報する。

その上で「情報を隠蔽・改ざんした事実や意図はない」と主張。報告書案には撤退問題の調査結果も盛り込まれた。

東京電力福島第1原発事故の社内調査最終報告書案は、政府や専門家も想定していない規模の津波だつたと何度も強調した上で、津波に対する事前の評価や事故対策について、政府との「共同責任」を主張したり、国に

責任転嫁したりする表現が目立つた。報告書案では、国の方

にさえ上つてない」と記述した。

三陸沿岸などと襲つた869年の貞觀津波は、専門家と相談して対応を検討したと説明。東日本大震災の発生直前の昨年3月3日、文部科学省か

いの地震は、検討の俎上に盛り上つてない」と記述した。

また福島原沖で大きな地震が過去になかつたたため巨大な津波の発生は想定しておらず、国の研究機関も同じ評価だつたと指摘した。事故4日前の昨年3月7日に、津波の長期的評価について経済産業省原子力安全・保安院と検討した際も「今すぐ対策を実施するようにとの指示は受けなかつた」と判断の妥当性を強調した。一方、事故当時から遅くて内容も杜撰」と批判されてきた情報発信が原因だつたとした。

一方、事故当時から1号機の本体爆発で、官邸が把握していない写真を東電が福島県に示し始めたことでの枝野幸男官房長官邸にお伺いをたて、許しが出るまで広報する。(同)が社内に今後は受けつけ、清水正孝官房長官邸をお伺いをたて、許しが出るまで広報する。

その上で「情報を隠蔽・改ざんした事実や意図はない」と主張。報告書案には撤退問題の調査結果も盛り込まれた。

東京電力福島第1原発事故の社内調査最終報告書案は、政府や専門家も想定していない規模の津波だつたと何度も強調した上で、津波に対する事前の評価や事故対策について、政府との「共同責任」を主張したり、国に





# ニッケイ俳壇

(701)

6月上旬

富重久子 選

ブ・ブルナン

小松 八景

○一人住むボインセチアに励まされ

冬めくや一句書きとめ又むる

夜半目覚め震えるやうな隙間風

○「ボインセチア」は猩々木(しょうじょうぼく)や猩々花(か)ともよばれるが、高さ4.5メートルにもなる喬木である。いつもクリスマスに鉢植えのボインセチアを見慣れたいたので、誌友のシャーカラで初めて大きな猩々木を見て吃驚したことがあった。

マスに鉢植えのボインセチアを見慣れたいたので、誌友のシャーカラで初めて大きな猩々木を見て吃驚したことがあった。

チアである。真紅の葉に似た苞を眺めて「励

まされ」ているようを感じて出来た一句。

2句目、「白き手套」で少し迷ったのは「手

套」が手袋と繋がつて、結句の「冬のばら」という動かない季語と重なるからである。しかし

薔薇を切るとき、棘があるので、少しごつい仕事用の手袋をはめて切つたということ。結句の「冬のばら」という鮮明な季語を据えることで許されるのではないかと考えたが、いかがであろうか。選者として研究を重ねなければならぬ責任の重い課題である。それに対して、「冬のばら」を詠んで印象深い佳句であった。

ボノベイア 田中 菊代

○鶴孫忌遺品の筆も大切に

徳深き遺品数々鶴孫忌

裏庭は老等の淨土星月夜

観光地冬一色にウインドー

○細梅鶴孫さんが亡くなつたのが昨年の4月24日で、もう一周忌もすんでしまった。蜂鳥誌の25周年「創刊号からの投句者の記念品を受けてとて頂いてから、すぐの訃報であつて忘

れられない大変筆まめな方で、最後まで句稿を集めてしまつてください、立派な字を書かれ

(読者文芸)

子雷鷗社

(5月分)

夜学の娘車轆轤で大あわて

澄む水に牟寿金寿の笑ひ顔

勤効静かに唇る田舎町

竹伐つて引きずつて来し野

良の道

庄司よし子

決む

寺師 幸子

夜の車轆轤で大あわて

澄む水に牟寿金寿の笑ひ顔

勤効静かに唇る田舎町

竹伐つて引きずつて来し野

良の道

柏野 花影 船者

武藤 栄

二グロ

にある富士額黒母

す

ソロカバ

前田 昌弘

母の日の亡母に捧げん詩(うた)を詠み

ピリキットコントミニオに鳴きかはす

鶴孫忌は蜂鳥信友の心の季語として未永く詠み続みたいと思っている。





# 崎山比佐衛冠した公園

## マウエスに州と市が造成

### アマゾン入植80周年で

崎山比佐衛（1875～1941年、高知県）といえば、東京に自ら設立した海外植民学校を通して多くの卒業生を南米に送り出したことで有名だ。校長職を辞した後、崎山はちょうど80年前の1932年に家族を引き連れて分校設立を目指してアマゾン奥地のマウエスに入植した。グアラナ栽培を志したが開拓直前の41年、67歳でマラリアに倒れた。その後、80周年では「崎山比佐衛公園」が現地に開設されたことが先づ分かった。

リオ国際環境会議目前にひかえ、アマゾンの大自然に魅せられた男の生涯を振り返った。



左からアジス州知事、プレートすぐ右は崎山忍美さん、右手前はペレッショ市長(崎山家提供)

立地だ。

そこに2年前の4月、アマゾン入植80周年を記念して州と市により「崎山比佐衛公園」が開設されたことが崎山比佐衛の三男忍美さん（故人）の妻・美智子さん（93、鹿児島市在住）への取材で分かった。

当時はオマル・アジス州知事、ミゲル・パイ

アマゾン河中流の最大都市であるアマゾナス

から、進学就職のために出発していった子供に呼ばれて、妻の美智子さんもマ

ウエスを出た。入れ替わ

りに、忍美さんは「自分

は長男だから後を見ない

といけない」との責任感

からベレンの大西洋漁業を

も植民したが、大戦によ

り解散となつた悲しい歴

史がある。しかし崎山家

は今も現地に残り、入植

辞めて、82年にマウエ

スに戻った。同地にはアマゾン漁業を

アラナ栽培を続けてい

た。そこから下つたと

ころがマウエスで、今で

すら秘境といつてい

る。

忍美さんは81年につい

て、「この間はパリンチ

ンガで亡くなつたこと

から、進学就職のために

出発していった子供に呼ば

れて、妻の美智子さんもマ

ウエスを出た。入れ替わ

りに、忍美さんは「自分

は長男だから後を見ない

といけない」との責任感

からベレンの大西洋漁業を

も植民したが、大戦によ

り解散となつた悲しい歴

史がある。しかし崎山家

は今も現地に残り、入植

辞めて、82年にマウエ

スに戻った。同地にはアマゾン漁業を

アラナ栽培を続けてい

た。そこから下つたと

ころがマウエスで、今で

すら秘境といつてい

る。

忍美さんは81年につい

て、「この間はパリンチ

ンガで亡くなつたこと

から、進学就職のために

出発していった子供に呼ば

れて、妻の美智子さんもマ

ウエスを出た。入れ替わ

りに、忍美さんは「自分

は長男だから後を見ない

といけない」との責任感

からベレンの大西洋漁業を

も植民したが、大戦によ

り解散となつた悲しい歴

史がある。しかし崎山家

は今も現地に残り、入植

辞めて、82年にマウエ

スに戻った。同地にはアマゾン漁業を

アラナ栽培を続けてい

た。そこから下つたと

ころがマウエスで、今で

すら秘境といつてい

る。

忍美さんは81年につい

て、「この間はパリンチ

ンガで亡くなつたこと

から、進学就職のために

出発していった子供に呼ば

れて、妻の美智子さんもマ

ウエスを出た。入れ替わ

りに、忍美さんは「自分

は長男だから後を見ない

といけない」との責任感

からベレンの大西洋漁業を

も植民したが、大戦によ

り解散となつた悲しい歴

史がある。しかし崎山家

は今も現地に残り、入植

辞めて、82年にマウエ

スに戻った。同地にはアマゾン漁業を

アラナ栽培を続けてい

た。そこから下つたと

ころがマウエスで、今で

すら秘境といつてい

る。

忍美さんは81年につい

て、「この間はパリンチ

ンガで亡くなつたこと

から、進学就職のために

出発していった子供に呼ば

れて、妻の美智子さんもマ

ウエスを出た。入れ替わ

りに、忍美さんは「自分

は長男だから後を見ない

といけない」との責任感

からベレンの大西洋漁業を

も植民したが、大戦によ

り解散となつた悲しい歴

史がある。しかし崎山家

は今も現地に残り、入植

辞めて、82年にマウエ

スに戻った。同地にはアマゾン漁業を

アラナ栽培を続けてい

た。そこから下つたと

ころがマウエスで、今で

すら秘境といつてい

る。

忍美さんは81年につい

て、「この間はパリンチ

ンガで亡くなつたこと

から、進学就職のために

出発していった子供に呼ば

れて、妻の美智子さんもマ

ウエスを出た。入れ替わ

りに、忍美さんは「自分

は長男だから後を見ない

といけない」との責任感

からベレンの大西洋漁業を

も植民したが、大戦によ

り解散となつた悲しい歴

史がある。しかし崎山家

は今も現地に残り、入植

辞めて、82年にマウエ

スに戻った。同地にはアマゾン漁業を

アラナ栽培を続けてい

た。そこから下つたと

ころがマウエスで、今で

すら秘境といつてい

る。

忍美さんは81年につい

て、「この間はパリンチ

ンガで亡くなつたこと

から、進学就職のために

出発していった子供に呼ば

れて、妻の美智子さんもマ

ウエスを出た。入れ替わ

りに、忍美さんは「自分

は長男だから後を見ない

といけない」との責任感

からベレンの大西洋漁業を

も植民したが、大戦によ

り解散となつた悲しい歴

史がある。しかし崎山家

は今も現地に残り、入植

辞めて、82年にマウエ

スに戻った。同地にはアマゾン漁業を

アラナ栽培を続けてい

た。そこから下つたと

ころがマウエスで、今で

すら秘境といつてい

る。

忍美さんは81年につい

て、「この間はパリンチ

ンガで亡くなつたこと

から、進学就職のために

出発していった子供に呼ば

れて、妻

## 特集

### 21世紀の森づくり 全伯植樹キャンペーン

ANO XV - Nº 3541

ブラジルのリオ・デ・ジネイロで開かれた世界環境会議から20年。この間世界中で何度か環境保護に関する協議が重ねられて来ています。多くの国々で沢山の人々により努力が重ねられています。世界の酸素の供給源と言われるアマゾンジャングルで開かれた世界環境会議から20年。この間世界中で何度か環境保護に関する協議が重ねられて来ています。多くの国々で沢山の人々により努力が重ねられています。世界の酸素の供

世界の酸素の供給源と言われるアマゾンジャングルで開かれた世界環境会議から20年。この間世界中で何度か環境保護に関する協議が重ねられて来ています。多くの国々で沢山の人々により努力が重ねられています。世界の酸素の供

日本として環境問題に  
リーダーシップ発揮を

オピニオン

上に住むあらゆる生物に及んで来ており、全ての自然破壊が公然と行われます。

本移民百周年には記念事業として全伯の日系団体に呼び掛け、「二十一世紀の森作り」を開始。これまで自然の森作りや森の再生事業に専念してきました。

これまで「二十一世紀の森作り」ではサンパウロ市電力局の協力を得て、チエテ・エコ公園にて邁進してきました。20

回二十二世紀の森作り第2シリーズとして「日伯・絆の森」を開始した。この事業はサンパウロ市緑化環境局の支援で面積450ヘクタールという広大な市立公園内的一部に東日本大震災犠牲者数と同じ2万本の「日伯・絆の森」を、そして更に園内の別の区域でも4万本の植樹をし、計6万本の植樹が計画されている。

協会では東日本大震災から1周年となる3月1日を機にこの事業を開始。3月18日には第1回の植樹式を市の緑化環境局長・ジョージ・エドワード氏をはじめ各界の来賓も出席して盛大に執り行われた。

その後、この事業を知つたサイクリング・グループ3団体が植樹を手伝いたいとの申し出があ

生物が好ましい関係で共存出来る関係さえも破壊しつあります。こうした状況下で次世代を憂う

た人々は国や行政だけに任せざ個々の範囲で色々な努力をする様になりました。こうした一人

に積極的に参加して行きたいものです。特に我々は、中で、私達も地球上に住む一人の人間として、その代價として、地球の温暖化、気候の変化によ

りました。こうした一人の努力の積み重ねが最終的に私達の美しい地

球を守る結果になるのだろ

うと確信します。こうした地球規模の取組みが真剣に行われて、

お互いに開拓され、農地を作り、深い森を開拓する結果になります。

その結果、今人々は、その陰には、多くの木々が伐採されたという事実もあります。百年の

時代を超えて、今二、三世

代になり豊かになつた

時代になり、その陰には、多くの木々が伐採されたという事実もあります。百年の

時代を超えて、今二、三世

代になり、その陰には、多くの木々が伐採されたという事実もあります。百年の

時代を超えて、今二、三世